



青柳園だより



2024年
2月号
文京区立青柳幼稚園

次へ

主任 樋谷 桃代

年度末に近付き、来年度のことが少しずつ現実味を帯びてきている時期です。園児からも期待と少しの不安が入り混じった様子が見られるようになってきました。園内では、進級進学に向けて準備が始まりました。今まで5歳児ゆり組の子ども達が担っていた誕生会の司会を4歳児もも組に教えようと取り組んでいました。「初めてで分からないもも組さんには、どうやって教えてあげたらよいか？」という担任の投げ掛けから、それぞれが自分より小さい子への関わり方を考え、やってみようとしていました。幼稚園の中では一番年上の子ども達は、とても誇らしい気持ちで、文字通り手取り足取り教えていました。「(手をピンと伸ばして)こうやって歩くんだよ」「おじぎの仕方はね…」といったように。4月に小学生になったら一番年下になる幼稚園の年長児ですが、今ここでしか感じられないこと、成長することがたくさんあります。教えながら司会をしている様子は、自分達だけで行う時より背筋が伸びていました。

一方で教えてもらうもも組の子ども達も、憧れの眼差しでゆり組の子ども達を見ながら素直に教えてもらっています。本当は前に立つことも緊張しているのに、「全然平気だよ。緊張しないよ。」と強がっていましたが、前日になると「司会、嫌だな」と緊張感を表すようになりました。それでも当日は、ゆり組の子ども達に手を引かれ、堂々と壇上に上がることができました。

先日、3歳児プレ保育のばら組がもも組の保育室に行った時のことです。もも組はちょうどコマ大会をしていました。そこへばら組の子どもたちが緊張しながら入っていくと、もも組の子ども達は快く受け入れ、系引きゴマを見せたり、コマを渡して遊ばせてあげたりしていました。いつもは幼稚園の中では年下の立場のもも組の子どもたちが、「お姉さんが糸を巻いてあげるね、回してみる？お姉さんが回してあげようか？」「すごいね、自分で回せたね」と、自分が言われてきたであろう言葉を掛け、自分達より一つ年下の子を前にしてとても優しく、頼もしい姿を見せてくれました。相手を思いやる気持ちと行動がとても微笑ましく、来年度が楽しみになりました。

青柳幼稚園は2年保育で4歳児1学級と5歳児1学級の園です。だからこそ学年間での異年齢交流はとても濃く、普段の遊びでも関わり合いが多いです。学級の友達だけではなく他学年の幼児ともつながり、一緒に活動を楽しみながら人との関わりを深め、次の学年への期待や意欲を高められるようにと願っています。



目線を合わせて
司会の言葉を伝えます。



一緒に動きながらお辞儀の仕方や
タイミングを伝えます。



普段の遊びの中でも、
一緒に遊んでいます。